



学校便り

佐渡市立金井小学校 令和8年1月29日 第10号

ホームページ <http://kanai-es.sado.ed.jp> E mail : kanai-es@sado.ed.jp

危機意識を高く持って

校長 森 和人

1月16日(金)に地震を想定した避難訓練を実施しました。翌日1月17日(土)は、「阪神・淡路大震災」から31年目の日でした。高速道路の倒壊など大都市神戸の街が、一瞬にして崩れた映像は、今でも脳裏に浮かびます。

訓練は、授業中に地震発生する想定でした。児童は机の下に頭を入れ、机の脚をもって落下物から身を守ります。避難時は赤白帽子をかぶって頭を守り、学級で列を組んで体育館に避難しました。私は体育館の避難本部で避難完了までの様子を見守りました。そして、1年生から6年生まで、誰一人小声も出さず、にやつくこともなく、最後まで真剣な態度で訓練を続ける様子に感動しました。



訓練では、災害被害を軽減させる「自助、共助、公助」の中の「自助、共助」について、以下のように話をしました。

- 日本では地震はいつ、どこで起きるかわからない。地震が発生したら避難訓練での行動を思い起こし、自分の身をしっかりと守ること。
- 避難所での生活となる場合がある。過去の避難所生活で、中高生のボランティア活動が大きな助けとなった話を多く聞く。小学生でも、避難所の掃除や食べ物の配給の手伝いなど、できることがあるので助け合う気持ちをもつこと。

子どもたちは、学校の中で毎日共同生活を行い、一生懸命そうじを行っています。委員会や係の当番などを決めて、責任をもって働いています。きっと、小学生でもお客様ではなく、助ける立場として主体的に動けるものと信じています。

訓練は学校にいる時での地震発生ですが、休みの日や家族ばらばらに離れているときなどの状況で起こることも当然あります。ご家庭の中で「自分の身の守り方」「家族で待ち合う場所」「家から持ち出すもの」「避難場所」など、確認しておくとういと思います。

今年になってからも、熱中症対策や暴風雪警報時に、「保護者緊急引き渡し」の措置を取らせていただきました。ご協力ありがとうございました。地震や大雨による津波や河川決壊の恐れがなければ、安全状況を鑑み、保護者緊急引き渡しのメールを発信することになります。メールや電話が使用できない場合、保護者の方の判断で迎えに来てもらう状況が起こるかもしれません。学校と保護者で対応の共通理解を図ればと思います。

